



チェスボローカップ水泳駅伝 ~20th Anniversary~

「勇気と愛は海を越える」をテーマに第20回チェスボローカップ水泳駅伝の記念大会が8月2日、県内外から60チーム297人が参加し、マグアビーチ（車力漁港）で行われました。

同大会は、旧車力村と米国メーン州バース市との直線距離1万2000^キを全参加者の泳いだ距離を合計し、毎年累計して泳ぎ切ろうという大会です。

昨年は競技中に水難事故が発生し、救護体制等が整わなかったため一部の競技が中止。今年は昨年の経験を踏まえて医師を1人から2人、海にはレスキュースレッドを装着したジェットスキー1台を配置するなど救護・安全管理体制を強化して行なわれました。

午前10時、ハーフオープン、レディース、シニアの各クラスが一斉にスタート。応援団からは「頑張れ、行け」と声援が飛び交う中、競技は順調に進行し、その後に行われたジュニア、オープンクラスも無事に終了することができました。

今年の参加選手が泳いだ合計距離は180・8^キ、これまでの通算距離は4,580・97^キ、目標まではあと5,619・03^キとなりました。

イベント関係者は、「今後も参加チームを1チームでも多く募り、1万2000^キ達成に努めたい」と話していました。



勇気と愛は海を越える



今年もまた、日本全国から集まったスイマーたちの壮大なチャレンジがマグアビーチで始まった。チェスボローカップはスイマーたちの絆をつなぐドラマの舞台。

ハイタッチで泳者から泳者へみえないタスキが引き継がれ、スイマーたちは海に飛び込んでいく。仲間の完泳を信じて。「今度はあなたよ。がんばって泳ぎきって」と願いつつ。



Open Class

■オープン・クラス

【一般の部】

高校生以上の男女
(混成チームでも可)

1チーム5名

1,000m×5=5,000m



Half Open Class

■ハーフオープン・クラス

【一般の部】

高校生以上の男女

1チーム5名

500m×5=2,500m



Ladie's Class

■レディース・クラス

【女性の部】

高校生以上の女性

1チーム5名

500m×5=2,500m



Senior Class

■シニア・クラス

【壮年の部】

40歳以上の男女

1チーム5名

500m×5=2,500m



Junior Class

■ジュニア・クラス

【子供の部】

小学4年生～中学生

1チーム5名

100m×5=500m



コース図



チェスボローカップの司会として、各イベントや水泳駅伝の実況などをこなし、いまやチェスボローの顔になっている稲見治子さん

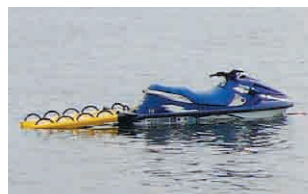
20回という節目の大会で、3年ぶりに全競技が無事に終了し、誰よりもホッとしているチェスボロー倶楽部会長の秋田谷建幸さん。閉会式では選手たちに「今年も感動を与えてくれてありがとう。来年もここで皆さんと会えることを楽しみにしています」とあいさつ。



閉会式終了後の記念撮影。泳ぎきることにこれほど熱くなれる人がいる限り、チェスボローカップは続く。競うことも集うことも、遙かな海を越えた記録への挑戦。今年も素敵な笑顔を見せてくれてありがとうございました。

今年も人間愛が受け継がれた

- 01 前日のウェルカムパーティーでチームの紹介や大会への熱意を語る選手たち。
- 02 勇気と愛の絆を絶やすことなく、バス市とつながる市、選手とスタッフ、それぞれの友好の輪の炎がともされる。
- 03 競技前に行われるメディカルチェック。保健師や看護師らは選手一人ひとりの血圧測定や問診を行う。
- 04 司会の「チェスボロー」というかけ声の後、会場の選手たちは一斉に「カーッ」と手を突き上げ、氣勢を上げる。今では開会式の恒例行事になっています。
- 05 参加選手たちは、背中や腕にそれぞれのチーム番号を書き入れます。
- 06 泳ぎきった後に食べるメロンは格別。つがる市産の甘いメロンは選手に大好評。
- 07 仲間の泳ぐ姿を陸から見守り、「がんばれー」を叫ぶメンバー。
- 08 地元からハーフオープンクラスに出場した「車力泳結会」。海を見つめながら仲間を待つ。



万一の水難事故に迅速な対応をするため、今大会から配備したレスキューレッド。



マグアビーチには海水浴シーズン中、ライフセーバー(斎藤俊史)を配置し海の安全管理も徹底している。



PM 1:00、チェスボローカップ水泳駅伝の花形クラスとも言われるオープンクラスがスタート。15チームの第1泳者がわれ先と走り出し、20回大会を盛り上げる。



旭富士杯、隆の里杯相撲大会

県内の小中学生から189人が参加した第5回旭富士杯県下小学校・隆の里杯県下中学校相撲大会がこのほど、森田スポーツパーク相撲場で開催され、選手たちは手に汗握る熱戦を繰り広げ、訪れた相撲ファンを魅了していました。



旭富士杯の結果は次のとおり：01 個人1年の部優勝 鳴海匠馬(道場光) 02 個人5年の部優勝 越後谷知樹(つがるクラブ) 03 個人6年の部優勝 菊池大史芽(つがるクラブ) 04 小学生団体優勝(つがる相撲クラブA)



土器の周りの土を慎重に取り除く子どもたち

せていました。参加者は今回の発掘体験を通じて、縄文人の生活に思いをはせたことでしょう。

縄文時代に興味津々 ―発掘体験―

子どもたちに郷土の遺跡に触れさせ縄文人の暮らしを理解してもらおうとNPO法人つがる縄文の会が7月28日、「牛瀨(1)遺跡」(縄文時代前期中ごろから晩期・約5500～2300年前)で発掘体験会を開催しました。

体験会には、市内外の児童や生徒約40人が参加。市教委の佐野忠史学芸員が講師を務め、遺跡や土器について説明し、フラスコ状土杭群などを見学。見学後には子どもたちが実際に移植べらを持って土を慎重に取り除き、土器片などを掘り出していました。

穂波小学校の菊池勇貴君(5年)は長さ17センチの石やりを発見し「やったー、ラッキー」と笑顔で声を弾ませました。

特産メロンなどを関西、関東で試食販売

つがるブランド推進会議(会長・福島弘芳市長)は7月25、26日(大阪・兵庫)、8月1、2日(東京都町田市)で、つがる市産のメロン試食販売会を行いました。

販売会では、福島市長はじめ今彰造議長、生産者、津軽まほろば会の会員、市職員などがつがる市産のタカミメロン、レノメロン、スイカ、ラズベリージャムなどを市民らに試食販売しました。

試食コーナーには買い物客や親子連れが列を作り、口にほおばっては「甘い」「おいしい」と大喜び。つがるちゃんもPRに駆けつけ、試食コーナーは終始人だかりが絶えませんでした。

「つがる」というネーミングが大阪・兵庫・東京にも知れ渡りつつあるようです。

01 自分たちで育てたメロンを消費者に販売する生産者 02 甘〜いつがる市産のメロンが飛ぶように売れます「お買い上げ、ありがとうございました」 03 福島市長も買い物客にメロンをPR



未来のアスリートたちが好成績を報告



稲垣少年クラブ

■稲垣少年クラブ

第29回全日本バレーボール小学生大会県大会（6月28日開催）で稲垣少年クラブが3年連続13度目の優勝に輝き、全国大会出場の報告に訪れました。

同クラブは決勝で東青地区代表の青森篠田VBCと対戦。スパイクやサーブで得点を重ねて2-0で接戦を制し、全国大会出場を果たしました。

福島市長は、「監督の言うことを守り、ケガをしないよう頑張ってきてください。良い報告を待っています。」と選手たちを激励しました。



稲垣中学校男子・女子バレー部

■稲垣中男女バレー部

青森県中学校体育大会（7月23日開催）で稲垣中学校の男子、女子のバレー部がアベック優勝を果たし、東北大会出場の報告に訪れました。

男子は13年ぶり9度目、女子は2年連続12度目の優勝、アベック優勝は17年ぶりということもあって選手や関係者は歓喜に沸き、男子キャプテンの工藤悠真君（3年）は「粘りのあるバレーで勝ち進んできたので、東北大会優勝を目指します」、女子キャプテンの大高早映子さん（3年）は「声を掛け合いながらプレーし、全国大会を目指します」と抱負を述べていました。



柏小ミニバス・スポーツ少年団

■柏小ミニバス・スポーツ少年団

東北電力旗第22回東北ミニバスケットボール大会東北大会（8月15、16日・宮城県利府町で開催）の男子の部で、過去最高成績の準優勝に輝いた柏小学校ミニバスケットボール・スポーツ少年団が市役所を訪れ、大会の報告をしました。

同スポーツ少年団は、県内の強豪チームを破り6年ぶり2度目の優勝で、東北大会に出場。前回の東北大会では3位でしたが、今回は日頃の練習の成果をすべて出し切つて、準優勝という好成績を収めました。

県民体育大会「市の部」相撲5連覇達成

第64回市町村対抗青森県民体育大会が8月1、2、8、9日の4日間、三沢市を主会場に開催され、市の部の相撲競技でつがる市が5連覇の快挙を達成しました。

監督を務めた菊地弘樹さんは「苦しい戦いが続いたが、たくさんの応援と選手の頑張りで5連覇できました。次も優勝できるように頑張ります」と話していました。

福島市長は「5連覇おめでとうございます。来年に向けてさらなる精進をしてください」と激励の言葉を述べました。

先鋒：神 真人 次鋒：野呂祐太郎
中堅：花田 裕也 副将：木村健太郎
大将：葛西 純也



前列左から：監督の菊地弘樹さん、福島市長、木村さん
後列左から：野呂さん、神さん、葛西さん